

国語科学習指導案

指導者 福岡中学校教諭 立花 律子

- 1 日時 平成22年11月2日(火) 6校時
- 2 学級 男子17名 女子15名 計32名 第3校舎3階
- 3 主題 古典との出会い 「蓬莱の玉の枝 竹取物語から」(国語1 光村図書)
- 4 主題について

(1)教材について

学習指導要領の第1学年C読むことの指導事項にはオとして「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」とあり、これは、小学校第5学年及び第6学年の「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分のものの見方や考えを広げたり深めたりすること。」を受けている。また、今回の指導要領改訂にともない、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が明記され、小学校で学ぶ古典の位置づけが重くなった。「竹取物語」は昔話の「かぐや姫」として現代の子どもたちにも広く親しまれている。原典は日本の古典の中でも「物語の祖」とされ、仮名文字で書かれた最古の物語として価値ある文章である。内容は「かぐや姫の誕生」「五人の貴公子への難題」「帝の求婚とかぐや姫の昇天」と大きく3つに分けられる。他国の昔話にも類話が存在し、千年以上前の文章であっても、そこに描かれている人間の感情や夢、希望、願い、欲望などの思いは現代の私たちとさほど変わらない。現実の世界ではあり得ないことだからこそ人々が強く望み、物語という形で結実したものの一つが「竹取物語」であるといえる。本教材は、空想物語(ファンタジー)やSF(スペースファンタジー)といった現代の物語と同様に楽しんで読むことのできる古典であり、中学校で初めて学ぶ古典への導入としてふさわしい教材といえる。

(2)生徒について

古典の学習に入る前にアンケートをとった。本学級の生徒32名のうち12名は小学校6年生の国語(上)の発展学習「柿山伏」が印象に残っていると答えている。「柿山伏」は現代仮名遣いに改められてはいるが、語句や言葉の言い回しは古文体であり、狂言という特性上、話し言葉で書かれている。このような形であれば生徒はある程度内容をつかむことができ、古典の面白さを味わうことができるということがわかった。また小学校や家庭でかるた遊びとして百人一首に触れてきた生徒も3名いる。ただし、歌の意味まで理解して楽しんできたとは言い難い。他に日本の昔話で知っているものに印をつけさせたところ「ももたろう」32名、「つるによぼう」31名、「うらしまたろう」29名、「かぐや姫」24名、「いっすんぼうし」23名、「きんたろう」19名であった。このような生徒達にとって本教材は親近感をもって受け入れやすく、本文と現代語訳が併記され原文には歴史的仮名遣いに読みのルビも振られているため内容をつかみやすいと思われる。また、既習の「麦わら帽子」で同じ作者の文章を比較し共通点や相違点について小グループで話し合う学習を経験しているため、今回の学習にも意欲を持って取り組むことができるとと思われる。

(3)指導について

生徒が小学校で読み物として古典の面白みにせっかく触れてきていても、これまでの中学校での古典の学習は、古文を読むための道具を与えようとして、まずは歴史的仮名遣いの学習に取り組みさせることが多かった。そのため、歴史的仮名遣いの段階でつまづきを感じた生徒には、その後ずっと古典は難解なものという印象を与えてしまうこともあったと思われる。そこで、中学校の古典でも現代語訳にかみ砕いた内容の方から入り、古人の気持ちや価値観をとらえさせ、古典の物語も現代の物語も同じ読み物であり、共感できるところがたくさんある面白いものだと気づかせたい。本時を経て、もっと読みたい、理解したいという気持ちにさせて古典の学習を深めさせたり、他の作品への読み広げにつなげさせたりすることも意図した。今回の学習では、先に教科書本文の現代語訳を活用して竹取物語の大まかなあらすじを確認し、内容の面白さや空想物語の特性に触れ、その後、古文に注目させ歴史的仮名遣いを学ぶ必要性をもたせてから古文の読解に移行したい。また物語文が語り伝えられて昔話に変化したことを踏まえ、声に出したときの古文特有のリズムや読みやすさを感じ取らせるために音読も大切にしながら学習を進めたい。

5 単元の指導と評価計画（別紙参照）

6 本時の指導

（1）本時の目標

C 読むこと 才

文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。

《関連する指導事項》

C 読むこと エ

〔伝統的な言語文化に関する事項〕（ア）（イ）

（2）本時の評価規準

関心・意欲・態度	古典に対する興味や関心を持ち、「竹取物語」とその他の文章の構成要素に着目して比較して読み、気づいたことをまとめようとしている。
読むこと	「竹取物語」とその他の文章を構成要素に着目して比較して読み、相違点や共通点から浮かび上がる空想物語に込められた人々の普遍的な思いをとらえることができる。
言語事項	仮名遣い、文末の言葉の違い、言葉の使われ方や意味の違いについて、それぞれ本文中から例をあげて指摘することができる。

7 本時の指導の構想

（1）本時の指導の構想及び留意点

あらかじめ、「お伽草子」を原典とする「一寸法師」「浦島太郎」の現代文訳を読ませ「竹取物語」と構成要素を比較して簡単に表にまとめさせおき、さらに前時にはデンマークのアンデルセンによって創作された童話「親指姫」を読ませておく。本時では、前時で読んだ「親指姫」の構成要素を確認しながら「竹取物語」との相違点や共通点を挙げさせ、表に書き加えさせる。その表をもとに浮かび上がる書き手のものの見方や考え方に気づかせ、空想物語(ファンタジー)には人々のどういう思いが込められているのかを考えさせた

い。そのような思いは時代や洋の東西を問わず、現代の自分たちにも充分共感できる感情であることを実感させるとともに、物語文が昔話として形を変えて現代まで残ってきたことの意味をとらえさせたい。

(2)「よく考え、伝え合う活動」について

文章を読み比べ、構成要素に着目しながら相違点や共通点を考えさせる場面ではどれか1つの観点を切り口にして全体で交流させることで、あまり昔話や読書に親しんでこなかった生徒も含めて共通確認できるようにしたい。相違点にも触れるが共通点の方が当時の人びとの思いがくっきりと浮かび上がり、生徒もとらえやすいと考える。3、4人のグループで前時から書き込んでまとめているプリントを共通の土台として話し合わせ、相違点や共通点から見えてくる人々の思いを探らせたい。この活動を通して個人の考えをより深めたり広げたりさせ充実した学習にさせたい。

段階	過程	学習活動	「よく考え、伝え合う活動」を通して、ねらいに迫るための手だて	
			評価の視点・方法	指導上の留意点 教材・教具等
導入 5分	出会う つかむ	1 前時に読んだ童話を確認する。 2 学習課題を確認する。		1 資料を確認させる。 〈資料と学習プリント〉
		竹取物語と他の物語を読み比べ、物語に込められた人びとの思いをとらえよう。		
展 開 30分	見通す 考える まとめる	3 童話のあらすじや場面の要素を確認する。 4 竹取物語との相違点や共通点を挙げ表にまとめる。 5 4で挙げた共通点の意味を考える。	<p>【関心・意欲・態度】 他の作品の要素と比較し、相違点や共通点をすすんで見つけようとしている。 〈記述と発表内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生の仕方 ・成長過程 ・優れた容姿や才能 ・想像上の事物 など <p>【読むこと】 物語に込められた思いを現代の自分達と比較し、人間の思いや在り方・生き方について考えを深めることができる。 〈記述と発表内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを授かりたい ・人より優れた容姿や才能がほしい ・不思議な力を持ちたい。 ・金持ちになりたい。 ・出世したい。 ・不老不死 など <p>〈記述・発表例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語には人々の夢や希望が込められていることがわかった。 ・人々の思いは昔も今も変わらないと思った。 ・比較して読むことで物語の特徴がわかった。など 	3 親指姫のあらすじや場面の要素を提示し一部は一緒に確認させる。 4 現実ではあり得ないことに着目させ、共通点を見つけさせる。 ・誕生の仕方などの観点を切り口にして考えさせる。 5 グループごとに話し合わせ、共通点の背後にある人間のこうありたい、こうだったらいいという憧れや願いや欲望といった思いを考えさせる。 6 共通する観点を根拠として挙げさせ、そこから国や時代が違って変わらぬ人間の気持ちを発表させる。〈学習シート〉
		6 物語に込められた人々の思いを学習記録にまとめ、発表する。	<p>・この話もこういう希望が込められていると思う。 ・もっと古典を読みたい。など</p>	6 '今日の学習で学んだことや関連して気づいたこと、もっと深めたいことなどを書かせる。 7 次時の学習内容を伝える。
終末 5分	振り返り・ 確かめる	7 次時の学習内容を知る。		